

笑楽幸

土佐清水市立清水小学校
校長室便り 令和2年10月22日

児童会役員選挙より

火曜日の3時間目に後期児童会役員選挙立ち会い演説と投票がありました。

役員になったときには、こんな学校にしたい、こんなことに取り組んでいきたいと言うマニフェストをそれぞれの候補者が訴えていました。

投票と言えば、18歳に選挙権が引き下げられ、適用されたのは2016年のことです。日本の制度としては、18歳からですが、それよりもっと早く選挙については子どもたちは学習しています。

児童会役員選挙は、演説を聴いた後、すぐに投票のため基本全員参加となっていますが、18歳に引き下げられた国民投票では、なかなか投票率は上がらないようです。

いろいろなことが要因としてはあるとは思いますが、投票率が上がらないのは（誰がやっても変わらない。何をしたいのか、何をするのか分からない。）と言ったような諦め感もあるかもしれません。

では清水小学校の児童会役員選挙はどうでしょうか。

清水小学校の子どもたちや先生にとっては演説内容は当たり前なのかも知れませんが、今まで積み重ねてきた清水小学校の児童会の姿が見られるような立ち会い演説であったように思います。

まずは、5年生の書記候補の演説からでした。何という堂々とした態度でしょうか。自分の思いを自分の言葉でしっかりと演説できていました。

演説の後、選挙管理委員から「書記候補4人の中から1人を選んで下さい。」と言う放送がありました。その言葉を聞いた私は、（えっ！？、この中から1人しか役員にはなれないの？困った、選べられない。どの児童も真剣に考えて演説していた。どれも応援したい。みんなが役員になれば良いのに…）という思いがしました。

が、先にも述べたように清水小学校ではこれが当たり前だったのでしょう。話し声一つ聞こえず、1人を選んでいました。

その後も、6年生の書記、5年生の副会長…と演説と投票が続きましたが、本当にどの児童も伝えることができていることに感動しました。

感動しつつも、どうしても選ばなければならない状況で投票の結果新しい執行部の役員5名が決定しました。

共通の内容としては、【全員ができる行事の計画】、【あいさつの響く小学校づくり】などがありましたね。ぜひ立ち会い演説で言っただけにならないように、5人で協力して考えて、実行に移



すことができるようにしてほしいものです。期待しています。

役員は決まりましたが、役員だけではできないもので、選んだ人はもちろんですが、清水小学校の全校児童の協力なくしてはできないことです。みなさんの力も貸してあげて下さい。

頑張ろう！！！！！！ おー！！！！！！

ちょっとした疑問から？

桃太郎の話知らない人は少ないと思います。

昨日新聞の一面を使って、『猿、犬、キジ』の後ろ姿が描かれ、遠く（鬼ヶ島？）を見ながら、なぜ桃太郎はおともに『猿、犬、キジ』を選んだらう？という広告がありました。

なるほど。そう思うとどうしてだろう？と疑問が出てきます。

物語は、童話向けに改変された内容で、実際に桃から生まれてきたのではないし、調べてみると「吉備津彦命（きびつひこのみこと）」という人がモデルになっているともいわれます。

ではなぜおともは『猿、犬、キジ』なのでしょう。鬼と戦うメンバーとしては、あまり強そうに見えないおともです。金太郎に出てくる熊や狼などをおともにした方が強い気もしますが…。

調べてみると『猿、犬、キジ』を選んだ理由は、「鬼門」に関係しているようです。（低学年には難しいかな？おうちの人に聞いてみてね）

「鬼門」は方角的には北東にあります。鬼門からは鬼や邪気が出入りすると言われていました。では反対の方角はどうでしょうか？

その方角は南西になります。「裏鬼門」と呼ばれていて、その方角に位置しているのが十二支の「戌（犬）」「申（猿）」「酉（鳥）」となります。そのため鬼の入れない位置にいる動物を鬼退治のおともとして選んだのではないかとされています。実は「吉備津彦命」の家来に「犬飼部大飼健」「猿飼部楽々森彦」「鳥飼部留玉臣」という三人の家来がいたという話もあります。

どちらにしてもきちんと意味があったことで、計算されたお話なのでしょう。

では、私的に『猿、犬、キジ』を連れて行った理由を考えてみると、猿のイメージはすばしっこくて、木にも上れ、木の実などの食料をとることができる。今では、いろんな犬種がいるが、桃太郎に出てくる犬は、匂いに敏感で敵を見つける、敵に立ち向かう強いイメージ。キジは、空を飛ぶことができるので高いところから全体を見回すことができる。また遠くまでいろんなことを知らせることができる。…など多くのいいところがあります。みんなで自分のいいところを出しながら、協力して一つの目標に向かって進んでいる感じがします。

そんな風に考えると学校も同じことが言えると思います。みんなが同じことを同じように考えたり、できたりするわけではありません。得意なことあれば、苦手なこともあります。でも自分ではできないことでも友達のを借りればできることもありますし、逆に友達の力にもなれます。後期の児童会役員も決まりました。桃太郎としてしっかりみんなを引き連れて先頭立ち、時には後ろからみんなを見守るなどしながら、『鍛える』を目指してほしいものです。

